

すぎなみ大人塾2018 高円寺コース2018

もっと高円”人”（こうえんじん） まちの”たまり場”をデザインする

平成30年10月31日（水）午後7時～9時00分

学習支援者：川上和宏 市民活動プランナー・コーディネーター

第3回 高円寺のコミュニティスペースの実践②

まちのフリースペース「ヒトツナ」@高円寺

於 高円寺障害者交流館

ゲスト講師：浅井義彦（東日本国際大学教授）

吉田善博（高円寺商店街連合会事業部長）

國松佳子（高円寺フリースペース・ヒトツナ代表）

ルック商店街 「ヒトツナ」浅井義彦さん

コミュニティスペースをつくるキッカケになったのは、高円寺・ルック商店街にある住居の1階が空いている。その空店舗・場所をどのように活用すれば、ルック商店街に取ってお役に立つのだろうかと考えて、高円寺商店街連合会の吉田さんに相談しました。

1 新しい技術が世をかえていく

次の時代をどう過ごすべきかと考えると、インターネットや情報通信関係等新しい技術がどんどん社会の仕組みを変えていく時代です。このようにして世界が大きな流れで変化していく時に、では自分はどうするか、高円寺地域はどうすればよいのかと考えたのです。

2 高円寺地区の地域構成

高円寺はどんなところかと言いますと、高円寺には昔からの住人である自治会や町会の方がこの辺に多く、自治会では商店を経営している方と店舗を貸している方がいます。貸している側は昔からの住人で、代が変わると建物を建て替えて貸し出しています。また高円寺は一流になったら出ていく街、成功したら出ていく街とも言われています。昔から、通過点としての住人、商人の中心拠点となっている。

3 高円寺地区は何を目指すのか、目標とする地域像は

多様な目的で高円寺に関わっている方が多く、このような方達のこと意識しながら地域拠点を考えていく必要があると思いました。では自分は何ができるか、なにを目指しているのかを考えた時、高円寺地域の個性、地域性から目標とする地域像は多様性を持った、創造的な地域と思うに至りました。

まずは、

- ① 高円寺の為に出来ることを考え、「あるもの」と「ないもの」で分けたところ、「あるもの」としては、祖父の代から高円寺に住み、父は自治会長をや

り、その縁で自治会に加入をし、色々な分野の専門家が知り合いで、高円寺商店街にも住んでいること。

- ② 「ないもの」は、高円寺は北口と南口の仲がうまくないとの噂を聞いたり、店舗を借りて商売している商店の人と自治会の人あまりうまくいっておらず、それをなんとかしたいと思う人々がどこにいるか分からずに困っていました。それで、次の時代の高円寺をどうするのか、この答えを出してみたいと考えたのです。
- ③ そんな時に、これからのまちづくりは地域みんなで協力するというチラシが目が止まり、高円寺商店街連合会の吉田さんに相談に行ったらヒトツナが現れました。

自分が有している施設や家や拠点の一角をパブリックなものに提供するのがここ 3~4 年多くなってきましたが、なぜ自分の家をそうしたかったのかというと、元々私がそのような生き方をしている、住んでいるところをそうしたいと言うよりは、皆と一緒に住んでいる意識が強かったからです。昔から知り合いの方が大勢遊びに来ていたが気にならず、私が仕事から帰ってきても家に誰かが居ることがよくありました。

質問 受講者女性 1

まだ具体的には決めてはいませんが、自分が最後に一人になりそうなので、自宅に人が集まる家になったらいいなと思っています。

質問 受講者女性 2

まだ分かりませんが、将来的には、自分の家の周りや地域に多くの人に来てほしいです。

吉田善博さん

まちのフリースペースヒトツナは今に至るまで 6 年です。どのような経緯できたかを説明したいと思います。私は高円寺地域で小学校中学校 PTA や北口にある純情商店街の運営を手伝っております。2012 年の 6 年前当時に民主党の鳩山政権の時に新しい公共という政策が、高円寺は中央線を挟んで北と南で歴史文化の違いであり仲が良くなくそのような状態を何とかしたいと思い、新しい公共から補助金がでると知り北と南と一緒にやるとというのが条件だったため、行政と一緒に活動を始めました。

活動を初めてから高円寺ニュースレターを 3 つ発行しました。ニュースレター 1

号誌は、地域の課題を拾い上げようと各団体にアンケートをとりました。高円寺が誇れることとか、より良いまちにするためにはどうしたらよいか、小学校中学校に関わってきたので高円寺の子ども達に対して、何ができるのかを皆で考えていこうと思いました。ニュースレター2号誌は、出てきた課題に対してワークショップを開き、高円寺の子供や教育の良い点や住んだ理由、高円寺の好きな店やあったらいいものをみなで議論し共有して表紙に出来上がったワークショップの内容を書きだしました。

高円寺地区の小中学校の子ども達にもアンケートを取り、「高円寺といえばなんですか？」の問いに8割以上の子供達が「阿波踊り」と答えました。2番目に多かったのが「商店街」で3番目に多かったのが「公園」でした。そのような答えに対し、大人達がどのように考え、最終的に1年間で今後どうしていくかを決め、ネットワークを繋げました。

地域の商店街や町会・学校等様々な人達を繋げるためにも「コミュニティスペース」があれば色々なことができるんじゃないのかと考えました。行政からは支援を頂き、何かできないかと思いながら続けていきました。コミュニティスペースを作ることは、地域の活性化に繋がるとは思ったのですが、運営や場所を確保するのが難しく、空き店舗も検討したが予算や人が無く、店舗の内装を変更するにもお金がかかり、そこをどうするかを考えました。そこは商店街の活性化事業で進めていこうとなり、スペースをつくることになりました。子育て世代から集まる場所が欲しいと多くの声も頂いたので作って運営はしたのですがなかなか上手くいかずにいましたが、國松佳子さんを紹介をされ4年前の7月14日「ヒトツナ」の運営を任せることになりました。

運営に関しては、國松さんにお任せをし、商店街を通じて様々なところに情報発信をし、運営支援をして活性化させて、今では商店街でも認知されてきてヒトツナを活用して様々な方達が自分たちでやりたいことやっています。

ニュースレターにも載せている「任せて文句を言うまちづくりから、皆で一緒に考えるまちづくりへ」の通り、皆が協力して出来ることをそれぞれやり始めています。商店街が活性化することは、つまり地域が活性化すること。次世代を育てたいとか地域の安全性を高めたいとか、なにかやりたい方がいらっしゃいましたら、お力にもなれますのでぜひご相談下さい。

質問 受講生男性

吉田さんは元々は、なんの仕事をしていたのでしょうか？

吉田さん

建設や不動産関係の仕事をしていました、子どもをまちで見かける度に、何か恩返しができないかと思い、今お話したような、商店街活性化の企画立案等のボランティアでやっています

学習支援者 川上和宏

ヒトツナをバックアップしている商店街はどのような形なのでしょうか

吉田さん

高円寺には13の商店街があり、高円寺商店街連合会と言う組織が出来ています。連合会が中心となり、高円寺のまちを考えるとということをやっています。たまたま純情商店街にあった連合会事務所の事務局を純情商店街が事務代行をしていたので13の商店街のまとめ役をしています。

國松佳子さん

初めまして、中学2年生の娘が幼稚園だった時のママ友と3人で「ヒトツナ」を運営しております、ヒトツナができた経緯はあまり知らなかったのですが、地域を活性化し、人と人を繋げることをやってみたい方がいると、友人から聞き吉田さんを紹介されました。ヒトツナは通常のカフェとは違い、待っていても人が来店せず悩んでいましたが、まず自分たちの繋がりの方達に声かけ、各々ができることをそれぞれやってみようという形をとりました。色々な事をやっているとな繋がりが増え、徐々に人が来てくれるようになりました。各種さまざまなイベントや年中行事、料理やカラーセラピーなど色々なことを皆が楽しんでくれて、利用する方の輪が広がっていきました。ハロウィンでは、うさぎや、ケーキの仮装衣装を着た方がいたりします。場があるからきてくれる、ヒトツナがあるので、それぞれ得意なことをやってみたいと皆が言ってくれてやってくれる。またそれに参加した同士が仲良くなって新たなイベントがはじまる。大きなイベントもやったりしてどんどん輪が広がっています。また、自分達自身ももっと様々な方に来てもらいたいと杉並地区で開催する子育てメッセやママエキスポ等のイベントにも出てPRしています。今では様々なジャンルの方が協力をしてくれるようになりました。

学習支援者 川上和宏

お茶も飲めない処の集客は難しいのですが、そんな中、ご自身のネットワークの方々の立ち寄りの場作りにヒトツナの活用をしたのですね。

國松さん

パンフレットを見てください、外観はこのような感じになっております。一面ガラスになっております。中の方はシンプルな四角になっておりテーブルも移動したり、折りたためたりして色々融通がきくようにして、自由にイベントの内容によってレイアウトできるようにしております。なので、お茶会の時は中にテーブルを集めてゆっくり座って、お茶をしながら話していただいたり、カフェの許可が下りるキッチンではないので、お料理教室にして皆の前でIHやオープンを使用し、予約制で料理を教えつつ皆で食べたりしています。

学習支援者 川上和宏

ここまでで質問やお店の事を聞きたい方はいますか？この後は具体的な場作りの実践紹介をしていきたいと思います。

質問 受講者男性1

2年程前にヒトツナを利用したことがあります、行政が持っている施設とヒトツナがやっていることの違いはありますか？

吉田さん

行政施設は、使用目的や飲食禁止等ありますが、ヒトツナは自由に利用して欲しいというコンセプトでやっております、ですので費用は全て商店街関連が出しております、その中の講座とか参加費や講師の方にお支払いするとかは全てお任せしております。行政が入るとききちんとしなければいけない場面がでてきますので、今は行政の方は絡んでおりません。

質問 受講生の男性1

もっと行政の施設を使いやすいようにして欲しい。例えば、行政の施設・場所を國松さんに任せたら似たようなことが出来るのか。なかなかヒトツナみたいな場所を見つけるのは難しく、なにかやろうと考えたらやはり行政の施設利用が念頭に出てきてしまいます。

吉田さん

行政は制度面の規制があります、色々な世代の方が利用するので、まとめて納得させないと運用は難しいです。なので、私は行政に任せることをせず、自分が出来ることをしました。ですが自分でやるとなると金銭的に難しく、それに関して行政の補助金を利用するという形をとりましたが、補助金もずっと続

く訳ではないのでその後も自分たちで継続するという工夫をしていきました。

最初は家賃も改装費用も補助金を頂き、その後の運営費も補助金を頂いていましたが、今現在補助金はありません。家賃等の支払いに関しましてはヒトツナパンフレットにも記載されているように、一般社団法人を設立し、高円寺純情商店街でブランドのお酒を造り一般社団法人が酒販免許を取得しヒトツナさんに委託してお酒を販売して運営費に回しています。やはり施設を探すのが難しく、その施設をつくっていきけるのが商店街なのだと思います、商店街の力を借りているというのが現状です。

質問 受講生男性 2

ヒトツナのスケジュールを見ると、子育て世代をターゲットにしているように見え、それ以外の独身世代はお断りされているように見えてしまうのですがどうなのでしょう。

國松さん

自分達の繋がりから広がっているのですが、やはり子育て世代の方が多くなってしまいがちですが、それ以外の方達にも利用していただきたいとヒトツナがオープン頃から考えています。社会人や学生やシニアの方達にも利用して欲しいです。

吉田さん

色々な方達に関わって頂きたいので「夜ツナ」という夜に開催してお茶を飲める場所を作ったり、「絆サロン」という高齢の方が集まりやすい場所も提供しています。商店街としても色々な時間に色々な方の利用をしていただきたいと思っておりますのでご検討下さい。

学習支援者 川上和宏

それでは、具体的な「場作り」としてヒトツナは 4 年間の間に色々なイベントを開催していますのでその事例を紹介していきたいと思います。

國松さん

色々な写真紹介をしていきたいと思います。左から「子どもバザー」というイベントを開催しました。以前別のイベントを開催した時に来てくれた方が歌手をしており、コンサートも開催しました、音響等はドアを閉めれば外に漏れることはないのです音楽を楽しむことができます。

色々なお店のパンを集めパンイベントを開催しました。キルフェボンのパティ

シエさんが高円寺に住んでいるママさんなので作ってきてくれて参加してくれたりしています。

福祉関係の作業所の方達の作品を販売した時もありました、浅井さんのお知り合いの方が福祉関係におりイベント開催できました。そば打ちイベントでは以前ヒトツナで味噌づくりイベントを開催した時に来てくれたママさんが講師でした。

2階では浅井さんのギャラリーがあります。本格的なアート作品展などを開催しております、以前開催した時は鉛筆を使い、写真のように仕上げる方がいまして、その方に下で講座を開催して頂き、大人気でした。

料理教室では、自然な食材にこだわっているママさんとスパイスにこだわっている方がコラボして料理教室を開催したりしています。その他にも発酵料理やパンをあまりこねないパン作りや、フランス料理を作れるママさんもいたりするので色々な料理教室を開催しております。スパイス教室はスパイス会社に勤めてらっしゃる男性の方が開催しております。山形県の置賜地域が高円寺と交流しているので紅大豆という赤い大豆を使い「豆ガールズ」という方達が料理教室をしたりイベントを開催したりして高円寺にも来て頂いたりしています。

学習支援者 川上和宏

高円寺と置賜は何故交流をしているのでしょうか

吉田さん

置賜は米沢近辺にありまして、置賜の川西町にある農業高校は演劇部がとても有名な高校でして題目で「食育ミュージカル」という食に関することをやっています。8年程前に東京でも公演をしてみたいとのことを言われ、高円寺の小学校での開催をお願いしました。今では毎年1回食育ということで開催しています。その繋がりから高円寺商店街でも販売して下さいとの事で山形の農作物を販売したりしています。また、先ほどお話したお酒の材料のお米の生産地でもあります。高円寺には山形のアンテナショップがあつたりもします。

國松さん

山形の語らいマルシェというイベントを開催した時は2008年度大人塾の方がだ がしや楽校（がっこう）をしていたりしています、イベントでは山形の地酒を振舞っていただいたり、美味しい食べ物もでたり、ワカメのつかみ取りなどがあつて来場者が1番多く300人位の方がきてくださって、交流しながら楽しくイベントが開催できました。

他のイベントでは本格的な藍染めをしていたり、ハンドメイドが上手な方も沢山いて、ニットや裁縫を教えてください方もおります。先日も高円寺 4 大イベントの 1 つである高円寺フェスが行われまして、この時はルック商店街をエスニック風にしてみるとのことでヒトツナもエスニック調になりました。また、浅井さんが大学で教えていらっしゃる宇宙とか科学のイベントもあって、去年の夏に知り合いの旦那さんが南極観測隊の方でオーロラを専門にしているとのことで、浅井さんと二人でオーロラと宇宙のイベントを夏休みに開催していただきました。その他にもハロウィンイベントはルック商店街が毎年 10 月 31 日に必ず開催していて午後 3 時には仮装したらお菓子を配るとのことで子供達が来てくれるようになり、写真コンテストを開催したりハロウィンメイクをしたりして大好評です。

夜ツナは定期的で開催していてとても好評だったのですが、夜の開催はなかなか難しく今はお休みしています。夜ツナでは、色々な方達が喜んでくれて大人の方も寂しさを持っている方もいるし、人に会えると楽しそうにしている方もいるという事を知ることができました。

学習支援者 川上和宏

ヒトツナでは、多様なイベントを開催していきまして、11 月 12 月のスケジュールも配られますので興味のある方は参加してみてください。今回の講座は、これで終了です。お疲れ様でした。ありがとうございました。

※講座終了後に、受講者全員でヒトツナまで移動し、店内を見せていただきました。